

ご使用になる前に必ずお読み下さい

マーベリック 施術マニュアル

2009年8月改訂

パーマ・ヘアカラー・縮毛矯正・ホット系パーマ
トリートメント・ヘナ・マニキュア
スタイリッシュトリートメント・各種応用例

塗布量・塗布方法について

M1・M2・M3

塗布量 ショート:15cc セミロング:30cc ロング:45ccが目安です。

※M1(赤ラベル)と水を1対3で希釈して下さい。(4倍液)

※M2(青ラベル)と水を1対3で希釈して下さい。(4倍液)

※M3(黄ラベル)と水を1対9で希釈して下さい。(10倍液)

精製水または水道水で希釈します(M2は原液で使用する場合があります)。

M1・M2は希釈後長期保存できませんので早めに使用して下さい。

M4-A・M4-B・トリートメント

塗布量 ショート:10g セミロング:20g ロング:30gが目安です。

ヘアエッセンス

塗布量 ショート:2cc セミロング:4cc ロング:6ccが目安です。

塗布方法

タオルドライ程度のウェットな状態でスプレーやアプリーケーターなどで塗布します。
塗布量は毛髪全体に塗布時の目安です。髪の状態に応じて適量を塗布して下さい。

ご注意

本書の工程に沿って使用して下さい。本書以外の方法では使用しないで下さい。

パーマ

プロセス	アイテム	方法	重要ポイント
↓	↓	↓	↓
1	シャンプー	マーベリックシャンプーで汚れ等を洗い流します。	
↓	↓	↓	↓
2	前処理	M2(原液) M1(4倍液)	最初にM2(原液)をハイダメージ部分に塗布し、次にM1(4倍液)を根元からミドルダメージ部分まで塗布しハーブドライします。ハイダメージ部分はM1厳禁！ ハイダメージ部分は完全ドライ！
↓	↓	↓	↓
3	ワインド	毛髪全体に水分補給後、ワインドします。(基本は水巻きです) M1(4倍液)を塗布しワインドするとリッジが良く出ます(ハイダメージ毛は厳禁)。	
↓	↓	↓	↓
4	1剤塗布	第1剤	毛髪の状態とデザインに応じて1剤を選択します。 放置タイムを設定し放置します。 放置後テストカールします。 還元が促進されるのでなれないうちはテストカールは従来の1/2のタイムで行います。 テストカールよりロッドアウトの時にリッジが出ることがあります。 全体が均一な温度になるように保温キャップ等で保温して下さい。 オーバータイムは毛髪に大きなダメージを与え、マーベリックの特長がすべて失われるので注意して下さい。
↓	↓	↓	↓
5	中間処理	M2(4倍液) + M5 M3(10倍液)	M2(4倍液)にM5を5%添加し根元から毛先まで十分に塗布します。次にM3を中間酸リンスとして1剤を塗布した部分に塗布します。 M2(4倍液)にM5を5%添加するとサラサラ感としっとり感がアップします。 M2+M5とM3が毛先まで浸透するように塗布します。2剤塗布の前にタオルドライし、余分な水分を取り除きます。
↓	↓	↓	↓
6	2剤塗布	第2剤	2剤を塗布し放置します。放置タイム後ロッドアウトし水洗します。
↓	↓	↓	↓
7	後処理	M3(10倍液) マーベリック トリートメント マーベリック ヘアエッセンス	M3を地肌と毛髪全体に塗布します。トリートメントを毛先を中心に塗布しチェンジリンスします。 タオルドライ後ヘアエッセンスを毛髪全体に塗布しドライします。 M3を塗布後、余分な水分を取り除きトリートメントを塗布します。 ダメージや髪質に応じてチェンジリンスの湯量を調整します。 ヘアエッセンスは洗い流しません。

■ P7・P8の「各種応用例」を参照して下さい。

ヘアカラー(ヘアダイ)

	プロセス	アイテム	方法	重要ポイント
	↓	↓	↓	↓
1	前処理	M2(原液) M1(4倍液)	最初にM2(原液)をハイダメージ部分に塗布し、次にM1(4倍液)を根元からミドルダメージ部分まで塗布しハーブドライします。 ハイダメージ部分は完全ドライ!	ハイダメージ部分がない場合は根元から毛先までM1(4倍液)を塗布し、ハーブドライします。 ハイダメージ部分はM1厳禁!
	↓	↓	↓	↓
2	カラー剤塗布	カラー剤 + M5	毛髪の状態とデザインに応じてカラー剤を選択します。 1剤にM5を5%添加します。 1剤・2剤を混合し塗布します。 放置タイムを設定し放置します。 放置後カラーチェックします。 発色が促進されるのでなれないうちはカラーチェックは従来の1/2のタイムで行います。	<p>■ファッションカラー：根元や毛先など反応が早い部分はカラー剤の塗布量を従来より2～5割少なくします。 塗布量が多いと根元が明るく毛先が暗くなる場合があります。</p> <p>■グレーカラー：新生毛は従来と同じ塗布量が必要です。既染毛はカラー剤の塗布量を従来より5割少なくします。既染毛は新生毛より明るめのカラー剤を選択します。</p>
	↓	↓	↓	↓
3	中間処理	M2(4倍液) + M5 M3(10倍液)	M2(4倍液)にM5を5%添加します。M2を地肌から毛先まで十分に塗布し良くなじませます。 (放置0分) 次にM3を地肌から毛先まで塗布し良くなじませます	M2は染毛促進と地肌に付いたカラー剤の定着を防止します。毛髪は良く染まりますが地肌は染まりません。 M2を塗布後放置が長いほど深く入りトーンが下がります。(30秒で変化) M3はM2の染毛促進を停止します。
	↓	↓	↓	↓
4	シャンプー	マーベリックシャンプーでカラー剤を洗い流します。		
	↓	↓	↓	↓
5	後処理	M3(10倍液) マーベリック トリートメント マーベリック ヘアエッセンス	M3を地肌と毛髪全体に塗布します。トリートメントを毛先を中心に塗布しチェンジリンズします。 タオルドライ後ヘアエッセンスを毛髪全体に塗布しドライします。	M3を塗布後、余分な水分を取り除きトリートメントを塗布します。 ダメージや髪質に応じてチェンジリンズの湯量を調整します。 ヘアエッセンスは洗い流しません。

■ P7・P8の「各種応用例」を参照して下さい。

縮毛矯正・ホット系パーマ

	プロセス	アイテム	方法	重要ポイント
	↓	↓	↓	↓
1	シャンプー	マーベリックシャンプーで汚れ等を洗い流します。		
	↓	↓	↓	↓
2	前処理	M2(原液) M1(4倍液)	最初にM2(原液)をハイダメージ部分に塗布し、次にM1(4倍液)を根元からミドルダメージ部分まで塗布しハードドライします。 ハイダメージ部分は完全ドライ！	くせが伸びにくいバックの根元等はM1(4倍液)を十分に塗布します。 ハイダメージ部分がない場合は根元から毛先までM1(4倍液)を塗布しハードドライします。 ハイダメージ部分はM1厳禁！
	↓	↓	↓	↓
3	1剤塗布	第1剤	毛髪の状態とデザインに応じて1剤を選択し塗布します。 放置タイムを設定し放置後軟化チェックします。 還元が促進されるのでなれないうちは軟化チェックは従来の1/2のタイムで行います。	根元・中間・毛先とダメージレベルに応じて1剤を選択し塗布します。 アイロン操作でくせが良く伸びるので必要以上に軟化させないで下さい。 オーバータイムは毛髪に大きなダメージを与え、マーベリックの特長がすべて失われるので注意して下さい。
	↓	↓	↓	↓
4	中間水洗	1剤を良く洗い流します。		
	↓	↓	↓	↓
5	中間処理	M2(4倍液) + M5	M2(4倍液)にM5を5%添加します。毛髪全体に塗布し良くなじませます。	ハイダメージ部分はM2(原液)にM5を5%添加し塗布します。
	↓	↓	↓	↓
6	縮毛矯正は完全ドライ後、アイロン操作を行います。ホット系パーマはワインド後、加温します。			
	↓	↓	↓	↓
7	2剤塗布	第2剤	2剤を塗布し放置します。放置後、水洗します。	
	↓	↓	↓	↓
8	後処理	M3(10倍液) マーベリック トリートメント マーベリック ヘアエッセンス	M3を地肌と毛髪全体に塗布します。トリートメントを毛先を中心に塗布しチェンジリンします。 タオルドライ後ヘアエッセンスを毛髪全体に塗布しドライします。	M3を塗布後、余分な水分を取り除きトリートメントを塗布します。 ダメージや髪質に応じてチェンジリンの湯量を調整します。 ヘアエッセンスは洗い流しません。

■ P7・P8の「各種応用例」を参照して下さい。

トリートメント

	プロセス	アイテム	方法	重要ポイント
	↓	↓	↓	↓
1	シャンプー	マーベリックシャンプーで汚れ等を洗い流します。		
	↓	↓	↓	↓
2	前処理	M2(原液) M2(4倍液)	最初にM2(原液)をハイダメージ部分に塗布し、次にM2(4倍液)を根元からミドルダメージ部分まで塗布しハーブドライします。 ハイダメージ部分は完全ドライ！	ハイダメージ部分がない場合は根元から毛先までM2(4倍液)を塗布し、ハーブドライします。 M1は使用しません。
	↓	↓	↓	↓
3	中間処理	マーベリック トリートメント + M5	トリートメントにM5を5%添加し、毛髪全体に塗布します。ラップして10分間加温します。 加温後クーリングします。	タオルドライ程度に水分補給すると塗布しやすくなります。 温度を高めで加温すると効果がアップします。
	↓	↓	↓	↓
4	後処理	マーベリック ヘアエッセンス	トリートメントをチェンジリンスした タオルドライ後、ヘアエッセンスを毛髪全体に塗布しドライします。	ダメージや髪質に応じてチェンジリンスの湯量を調整します。 ヘアエッセンスは洗い流しません。

■ P7・P8の「各種応用例」を参照して下さい。

ヘナ・ヘアマニキュア

	プロセス	アイテム	方法	重要ポイント
	↓	↓	↓	↓
1	シャンプー	マーベリックシャンプーで汚れ等を洗い流します。		
	↓	↓	↓	↓
2	前処理	M1(4倍液)	M1を根元から毛先まで毛髪全体に塗布しハーブドライします。	ヘナ・マニキュアが塗布しやすい程度にドライします。M2は使用しません。
	↓	↓	↓	↓
3	ヘナ・ヘアマニキュア	ヘナは染毛が促進されるのでなれないうちはカラーチェックは従来の1/2で行います。マニキュアは従来どおり施術します。		キシミがないので塗布がしやすく染毛が促進されるので均一に染毛できます。シャンプーしても色落ちが少なくなります。

■ P7・P8の「各種応用例」を参照して下さい。

スタイリッシュトリートメント

	プロセス	アイテム	方法	重要ポイント
	↓	↓	↓	↓
1	シャンプー	マーベリックシャンプーで汚れ等を洗い流します。		
	↓	↓	↓	↓
2	前処理	M2(原液) M2(4倍液)	最初にM2(原液)をハイダメージ部分に塗布し、次にM2(4倍液)を根元からミドルダメージ部分まで塗布しハーブドライします。 ハイダメージ部分は完全ドライ！	ハイダメージ部分がない場合は根元から毛先までM2(4倍液)を塗布し、ハーブドライします。 M1は使用しません。
	↓	↓	↓	↓
3	中間処理	マーベリックトリートメント	トリートメントをハイダメージ部分に塗布します。	タオルドライ程度に水分補給すると塗布しやすくなります。
		M4-A	M4-Aをバックからフロント・サイドの順で毛髪全体に薄く均一に塗布し1～5分間放置します。 ダメージレベルが高いほど放置タイムを短くします。 広がりを抑えたり毛流れを整える場合はシェーブし整えます。	M4-Aは微弱な還元力があります。 加温すると還元力がアップします。 ハイダメージ部分がある場合はM4-Aを塗布後、すぐに後処理の工程に入ります。(放置タイム0分) 加温したり放置タイムが長すぎるとパサつきが出る場合があります。
	↓	↓	↓	↓
4	後処理	M3(10倍液)	M3を毛髪全体に十分に塗布します。塗布後タオルドライします。	塗布量が少ないとトリートメント効果が十分に出ない場合があります。 垂れやすいので注意して下さい。
		M4-B	M4-Bを毛髪全体に十分に塗布します。(M4-Aと同量) 広がりを抑えたり毛流れを整える場合はシェーブした後ラップします。 5分間放置後水洗します。	塗布量が少ないとトリートメント効果が十分に出ない場合があります。 垂れやすいので注意して下さい。 ラップ等で押さえるとスタイリッシュ効果がアップします。 水洗後、タオルドライします。
		マーベリックトリートメント	トリートメントを毛先を中心に塗布しチェンジリンスします。	ダメージや髪質に応じてチェンジリンスの湯量を調整します。

■ P7・P8の「各種応用例」を参照して下さい。

各種応用例

1	<p>超ハイダメージヘアの前処理(断毛・ビビリ・パサつきなどを防ぐために)</p> <p>超ハイダメージ部分とハイダメージ部分にM2(原液)を塗布後、ラップし5～10分間加温します。 (M2は濃度が高いほど修復力が高い)。次に根元からミドルダメージ部分までM1(4倍液)^{※1}を塗布し毛髪全体をハーブドライします(ハイダメージ部分はM1厳禁!)。更に超ハイダメージ部分とハイダメージ部分は完全ドライします。抜群のダメージ修復効果を発揮します。</p> <p>※1 トリートメントメニューではM1(4倍液)は使用しません。根元までM2(4倍液)を塗布し加温します。</p> <p>縮毛矯正の場合は、更にハイダメージ部分にM3(10倍液)とトリートメントを1対1で混合したローションを塗布しハーブドライすると断毛を防ぎます。</p>
2	<p>パーマ剤やカラー剤の選択</p> <p>マーベリックはデザイン性とダメージ修復効果が優れているのでパーマ剤やカラー剤等の薬剤は、PPTなどが配合されていないシンプルなタイプをお薦めします。</p> <p>■パーマ剤・縮毛矯正剤</p> <p>ダメージレベルやデザインに応じて、チオ・チオシス・シス・システアミンなどを選択します。 ハイダメージ部分はオーバータイムしないよう適切に放置タイムを設定して下さい。 オーバータイムによるダメージは中間処理や後処理では修復できません。</p> <p>■カラー剤</p> <p>今まで通りカラー剤を選択すると根元は明るめに毛先は暗めになることがあります。 今までより過酸化水素濃度が低めの2剤の方がきれいに発色する場合があります。</p>
3	<p>中間処理はダメージレベルや髪質によってM2の濃度調整とM5を添加します</p> <p>■ダメージレベルによってM2の濃度を調整する(M2は濃度が高いほど修復力が高い)。 【ハイダメージヘア】 原液←2倍液← 4倍液 →6倍液→8倍液 【ヴァージンヘア】</p> <p>■軟毛や細毛にハリコシを出す(M2は濃度が高いほどハリコシが出る)</p> <p>M2の濃度を上げます。 4倍液 →2倍液→原液</p> <p>■硬毛や太毛にしなやかさを出す(M2は濃度が低いほどしなやかさが出る M2+M5)</p> <p>M2の濃度を下げます。 4倍液 →6倍液→8倍液 M2(6～8倍液)にM5を5%添加します。</p> <p>■乾燥気味の髪に潤いを与える(M2にM5を添加)</p> <p>ダメージレベルに応じた濃度のM2(原液～8倍液)にM5を5%添加します。</p>
4	<p>M5の活用方法(サラサラ感としっとり感がアップします)</p> <p>■カラー剤(1剤)・M2・マーベリックトリートメントにM5を5%添加します。 ※M2(原液)にM5(原液)を添加した場合は長期保存できます。 ※カラー剤・トリートメントに添加した場合はすぐに使い切して下さい。</p>
5	<p>髪質改善の効果が表れた毛髪には</p> <p>■中間処理でM2(4倍液)を使用するとハリコシが出過ぎます。 髪質改善のレベルに合わせてM2の濃度を下げます。 4倍液 →6倍液→8倍液</p>

各種応用例

6	<p>M3でしつこい残臭を除去する 後処理でM3(10倍液)を塗布し3~5分間放置するとシステアミン等のしつこい残臭を除去します。</p>
7	<p>後処理でM3を塗布するとキシミが出る 後処理でM3(10倍液)を塗布するとキシミが出る髪質の場合は、トリートメントを塗布した後、M3(10倍液)を塗布し良く馴染ませます。その後チェンジリンスします。</p>
8	<p>パーマ・ヘアカラー(ヘアダイ)の後に、ヘナ・マニキュアを施術する パーマ・ヘアカラー(ヘアダイ)は後処理をしません。ヘナ・マニキュアは前処理をしません。</p>
9	<p>パーマ・ヘアカラー(ヘアダイ)を続けて施術する ※優先するメニューが後になります。 最初のメニューは後処理をしません。後のメニューは前処理をM2(4倍液)で行います。</p>
10	<p>チェンジリンスの方法 トリートメントを塗布し良くなじませた後シャンプーボウルに栓をしてトリートメントを流します。中間レベルまでお湯が溜まったら、溜めたお湯を毛髪全体に数回繰り返しかけ良くなじませます。そのまま上げてタオルドライします。湯量が少ないと重めに多いと軽めに仕上がります。</p>
11	<p>ヘアエッセンスの使用方法 ヘアエッセンスは洗い流さないタイプのトリートメント剤です。(スタイリング剤ではありません) 高配合された18-MEA・リピジュア・ケラチンの働きで潤い・しなやかさ・ハリコシ・艶を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■チェンジリンスの後タオルドライし、ヘアエッセンスを毛髪全体に塗布し仕上げます。 ■ヘアアイロンやコテの前にヘアエッセンス使用すると抜群のトリートメント効果を発揮します。